

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103087		
法人名	営利法人：株式会社 菜の花		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	高松市飯田町104-1		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町受理日	平成22年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JirgyosyoCd=3770103087-00&amp;PrefCd=37&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JirgyosyoCd=3770103087-00&amp;PrefCd=37&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成24年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所時以来、全職員で会社方針を目標達成計画に掲げ、期間を定め実践中。海外(北欧)の教育機関で、過去3年間で職員4名が「認知症緩和ケア」について受講した。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

会社の方針・運営理念に基づいて、代表・施設長・職員が一丸となって入居者本位のケアに取り組んでいる。さらにデンマークの認知症緩和ケアの研修を、現在までに4人が受講し、日々のケアに活かしている。職員同士話し合える環境が作られており、常に切磋琢磨し、基本的対応の仕方を理解し、実践している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目：11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	グループホーム菜の花(Aユニット)	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成16年5月15日開所以来理念をつくり、現在に至っている。 会社方針・運営理念を毎朝、全職員が復唱かつ実践している。月1回の全体会議で、反省を含め意見交換をしている。	運営理念の「入居者様・ご家族・職員が知恵・優しさ・技と力を出し合い入居者を中心に、みんなで睦みあい・親しみを深め、尊重しあう楽しく穏やかな、我が家づくりを目指しています」を、日々実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の「年会費3万円・その他」で、地域の一員として貢献している。運営推進会議で「活動評価・助言・要望」を伺い実践している。さらに、家庭菜園・散歩・文化祭へ出展等で地域と交流している。	自治会に加入し、入居者18名の年会費を納入している。ごみについては、地域に迷惑をかけないように事業所独自で処理している。自治会の集会には、職員の同行のもと入居者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしている。「運営推進会議」の席上・見学者・ボランティアの受入・火災時等避難誘導及びキャラバンメイトで出前「認知症サポーター講座」を呼びかけた結果、声がかかり実践した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。「職員の名札装着」「下肢筋力低下防止等」助言をいただきサービス向上に努めている。「運営推進会議」の議事録へ掲載。毎回、家族へ送付済み。	運営推進会議で出された意見・助言について、実行するよう努めている。議事録は毎回家族へ送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。運営推進会議への出席及び市地域包括支援センター主催の介護支援専門員情報交換会等で協力関係を築いている。	市町村担当者とは連携を密にし、協力関係を築くよう努めている。運営推進会議への出席、介護支援専門員情報交換会にも積極的に参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。門・玄関を含め「施錠等」一切していない。同業者「グループホーム」及び地域等の介護支援専門員から、身体拘束等をしない「グループホーム」だとの評価を受けている。	門・玄関を含め、施錠は一切なくオープンにしている。家族の方も「こんにちは」と入って来られている。閉じ込めないケアを目指しており、身体拘束は見られない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「会社方針・運営理念」を理解し、自然に職員は防止に努めている。会社側も職員へ「会社方針・運営理念」を実践。「会社=職員」が対等であると意識づけをした結果=虐待の行為=0件を更新中。		

グループホーム菜の花(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援をしている。「過去に、成年後見制度の後見人(実子)が不適合で、裁判所へ申し立てた結果、弁護士への変更がなかった」実績がある。その後も、管理者や職員へ機会教育を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。特に「契約書・法改正等」その都度、説明時に各項目にわたり声を出して、内容の理解を求めている。問題が起きてからでは遅いので、「主たる介護者」に納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。運営推進会議・家族会・面会時に意見等を聞き業務へ実践。外部者へは、施設見学等の機会に運営事項を説明、また意見を拝聴し、実践に活かしている。	運営推進会議に家族の代表者が出席し、意見を述べる機会を持っている。さらに、年1回家族会を開き、意見を聞いて実践につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。毎月一回、全体会議・ユニット会議を開催して、会社方針・運営理念等について意見交換している。この一時間程度は「勤務の法定実働」を減らして、会議に充てている。	毎月1回、全体会議・ユニット会議を開催し、職員の意見・提案を聞く機会を持ち、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。入社時に職員個々に、将来の目標を持ってもらっている。その目標が実現できるよう配慮している。さらに、目標となる人材=「看護師・介護支援専門員・介護福祉士・経営又労務管理」等在籍中。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。管理者等「内部・外部研修」勤務時間内で確保している。特に「八時間の勤務時間中」=他の職員が利用者を「どのよう、対応している」か、の「自己研修制度」を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この地域「四社等の同業者」と取り組みをしている。特に「介護事業は複雑多岐」にわたっているので、交流は必要と感じ、当初から実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。「認知症介護の基本」であることは全職員が理解している。その結果、(4)設問での実践に繋がっている。平成16年5月15日開所以来、建物等外溝を含め設計を依頼した。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	左記事項を把握するために「家庭に出向き」さらに「当事業所を見学」していただき、要望等を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族等の意向を傾聴し、それを100%を受け入れるには「いかにしたら良いか」あらゆる角度から検討し納得をいただく。無論、専門的な助言を申しあげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「我が家づくり」という運営理念に基づき、意識の醸成＝「全体会議・各ユニット会議」を高め、利用者個々の知恵又は意見等を受入れて、築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「認知症対応型共同生活介護」の基本と各職員は熟知。左記事項は家族会・毎月の便り・面会及び電話等で、意思の疎通を図り築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から「本人が輝いていた頃」の背景を写真等で、確認又は聞きだし、支援をしている。特に、馴染みの方が訪問された時でも、その会話に支障のない程度に、側で見守り支援に努めている。	家族から「本人が輝いていた頃」の情報を入手し、支援に結びつけている(例: 詩を作る)。また、意欲が継続できるように、展示コーナーや家族との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	非常に時間を要するが、各職員は「利用者個々の中をとりもち」支援に努めている。		

グループホーム菜の花(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居後、各職員は声かけ等を実践。看取り等死亡した場合、葬儀へ参列「喪主挨拶」でも「感謝の言葉」をいただいている。これに「おごることなく、謙虚に反省」を含め、さらに、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者中心の介護が基本と位置づけ、会社方針等が業務実施の判断基準と認識。全職員が理解し実践している。さらに、事例の発生後は意見交換等を行い、切磋琢磨に努めている。	会社の方針である「真実か・好意と友情を深めているか・みんなの為にできるか・みんなに公平か」にそって、利用者中心の介護を基本にして取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他の「グループホーム」入所されて居た方が、不満で当「グループホーム」へ入居。その方が、日々和んだ生活が過ごせるように、ご家族から経過等の把握に努め、アセスメント等を行い、実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の送り・ユニット会議等で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族及び職員全員の意見を尊重「ユニット会議等」ご本人が現状の状態を一日でも長く生活ができるかを、介護予防も含め意見交換をし作成している。	本人・家族・職員全員の意見を尊重し、現在の状態が1日でも長く維持できるようにチームとして取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左記事項のように記録等を備え付け、その通り実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ、十二分ではないが取り組んでいる。現在は、看護師・介護福祉士・調理師及び四年制大学の心理学専攻卒者も介護業務に従事しているため、幅広く対応している。将来は、マッサージ師等の職員配置を考えている。		

グループホーム菜の花(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会へ加入「年会費3万円」、塵処理は当社負担、さらに、道路幅が狭く車の離合に支障が生じているために、敷地を「車の離合ができるように」地域へ提供。協働=地域の文化祭へ、利用者の作品を出展等をして支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科・診療内科及び精神科医が定期的又は緊急な往診等の連携を築き、さらに、ご家族ように対し「毎月の便り」又はその都度、状況を報告。併せて、事業所の行事「利用者との忘年会・バーベキュー等」にも気軽に参加していただいている。	事業所の協力医療機関の診察を家族が望んでおり、対応している。眼科・整形外科等には、職員が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置「利用者・介護職員」との日常の関わりはでき、さらに、いついかなる時間、場合(夜間)によっては、夜勤も実践する等、家族からも職員・地域からも信頼を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	高齢者のお世話をさせてもらう関係から、開所時から常勤看護師を配置。その関係で、左記の事項は円滑にできている。これにおごることなく日々努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当グループホームは当初から、「入居→重度化→終末期」さらには「看とり」まで、ご家族が希望されればということで、ご案内。従って、医療連携体制を含め看取りまで、主治医等からご家族を含め取り組んでいる。	家族が希望すれば、医療連携を含め看取りまで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	取締役施設長主導で年3回程度実践している。また、利用者急変においても、正看護師2名が常勤しているので、対応する傍ら全ての職員に機会教育を実施、よって、実践力を身に付けている。さらに、練度向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	軽量鉄骨の平屋建物で火災等の避難誘導訓練を年間2回以上実施し、さらに、避難誘導口を2か所増加。特に地域の方へ協力を依頼して「電話番号をもらっている」夜間は、夜勤者2名＝「各ユニット」又は3名の時もある。土砂流の災害も皆無の地域環境にある。	年2回、火災時等の避難誘導訓練が実施されている。近隣の方にも協力依頼をし、電話番号を把握している。緊急時の職員の連携体制も整えられている。また、水と黒砂糖を備蓄している。	地域の住民への協力依頼について、更に検討を重ね、例えば、外へ誘導された人の見守りなど、具体的な協力の内容について確認しておくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応をしている。特に、「入浴時及び脱衣は個人ごと」・「トイレ使用時はカーテンを備え付けで活用」さらに食事の摂取も、利用者の「その時の気分・体調等」併せているが、まだまだ工夫を要する事項があると、日夜努力・実践している。	特に入浴・トイレ介助において配慮している。食事摂取時も「そのときの気分・体調」を考慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	左記事項は、例えば、献立作成時に「何が食べたい・食材はどんな物を入れる」と自己決定及び働きかけをしている。日々和んだ生活が基本」と位置づけ、さらに職員は利用者様が家庭で生活している雰囲気を意識し接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外気浴・食事時間及び入浴時間は、一応決めているが「利用者様の状態・希望」を優先している。「日々和んだ生活が基本」で職員も利用者様が家庭で生活している雰囲気を意識し実践。さらに、個々の職員レベルに差がないように機会教育等、切磋琢磨している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の「家族と調整して、使用できる金額」を考慮し実施。特に「清潔感・季節感」は職員の「臨機応変及び創意工夫」で実践しているが、現状を更に向うべきと認識。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	左記事項をできるように支援している。利用者の意向を優先に「食事作りをはじめ、生活に係わる事項」のすべてを強制は絶対しない。要介護の度合いが、経年とともに支援の状況も変化。	特に食材については配慮している。食事は楽しみの一つであり、美味しく食べていただくことをモットーに対応している。嗜好品については、食後のコーヒなどは声かけをして、甘口や薄口など、利用者の好みに応じて、楽しんでもらっている。	

グループホーム菜の花(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	左記事項は大変重要であると、全職員が認識している。看護師の指導の下、調理師及び介護職が一丸となって、利用者個々に「栄養摂取や水分確保」を創意工夫して実施。実践。特に「水分確保」が困難な場合は、医師の指示に基づき点滴で補う等の処置を実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	左記事項は「万病のもと」と位置づけ、歯科医往診時、必要に応じ相談、かつ、職員は歯科衛生士から指導を受け支援している。さらに、利用者個々の口腔ケアの状況も確認してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者個々に排泄の周期を記録して、その周期に基づき、排泄誘導している。が、状況によっては失禁(自立支援不可)の場合もあるが、基本は左記事項の通りと自覚・実践している。	排泄チェックによりトイレ誘導をしている。少し漏らす方もいるが(パンツ式)、排泄誘導を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常勤看護師の指示の下に、「調理師、介護職員」が連携して、利用者個々の食事摂取量と排便の状況を相互に確認・記録し、常勤看護師へ結果を報告している。状態に応じて常勤看護師は医師の指示に基づき、医療行為を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、一応決めているが「利用者様の身体の状態・その日の希望」を優先している。特に、車椅子の利用者様も浴槽に肩まで浸かれるように「リフト」を設置し、職員の負担軽減と併せ入浴を楽しむことができるように支援をしている。	入浴介助時は1つのユニットに全員集まり、レクリエーションなどを実施し、ユニット間の交流の場にもなっている。2ユニットで1つは普通の浴室、1つはリフト浴を設置しており、個別に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後は「横になる時は、右側を下に心がけている。」消化吸収が良いから。さらに車椅子の方は「ベッド」で休憩していただいている。気温の変化に対し「熱中症」予防を目的に、各居室に扇風機を設置して、エアコン(冷房)と併用が効果大。		



グループホーム菜の花(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の誤薬=「毒」であることを書物・常勤看護師から機会教育を受けて理解。かつ、その備え付け書物=「適応・用法付保険薬事典」でも個々に理解を深めている。支援後の状態を各職員が常に把握している。異常「誤薬を含む」あった場合はすぐに報告を義務化している。会社方針=「真実か」に抵触可否か		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左記事項は、時間帯によって設けている「クラシック等のDVD」鑑賞及び「詩集」の創作等、利用者個々に楽しみごとを持っているため、職員は見守りと併せ支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	平屋の事業所であるから、気軽に各ユニットの朝食後又は夕食後、庭先に出て家庭菜園の状態を観たり、思い思いの時を楽しんだり、さらに、近くのスーパー、コンビニ及び喫茶等へ外出支援もしている。	事業所から気軽に外へ出られるようにしており、菜園の草抜き・日光浴などをされている。時には車でスーパーなどへ買い物に出たり、喫茶店でコーヒーを楽しむなど、外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「家族の意向を尊重し、収支は常時確認をいただき」支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の使用制限と料金も徴収していない。家族からは利用者様宛のFAX・電子メールで意志の疎通を図る等で左記事項を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「老人=汚い・臭い」の代名詞を払拭すべく、各職員は認識している。左記事項以外に「臭気の澱み」を解決すべく、天窓の開閉で良い環境を保っているが、まだ、工夫する余地がある。	共用空間はソファがあり、寛げるようになっている。天窓があり、天井の空間がゆったり感をもたらし、利用者は居心地よく過ごしている。天窓が臭気のをよどみを解消している。	

グループホーム菜の花(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットに「和風(4.5畳)以外に洋風「ソファセット(5人掛け)」の共用空間を設けている。家族等の面会場所及びある利用者の方は、「詩」を創作時に使用、多岐にわたり利用。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で「使い慣れた物や好みの物=ベッド等」の持ち込み、各居室の表札「自宅感覚」で苗字で表示。さらに、利用者様個々の作品を貼付して、独自の雰囲気作り等を工夫している。	ベッド等も使い慣れたものを持参している方がいる。それぞれ使い慣れたもの、好みのものを持ち込まれ、個別性が尊重されていることがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。特にすり足歩行及び車椅子走行者の方々が「安全」に過ごしていただけるように「段差」を少なくしているが、まだ、工夫の余地があると理解している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成16年5月15日開所以来理念をつくり、現在に至っている。 会社方針・運営理念を毎朝、全職員が復唱かつ実践している。月1回の全体会議で、反省を含め意見交換をしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の「年会費3万円・その他」で、地域の一員として貢献している。運営推進会議で「活動評価・助言・要望」を伺い実践している。さらに、家庭菜園・散歩・文化祭へ出展等で地域と交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしている。「運営推進会議」の席上・見学者・ボランティアの受入・火災時等避難誘導及びキャラバンメイトで出前「認知症サポーター講座」を呼びかけた結果、声がかかり実践した。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。 「職員の名札装着」「下肢筋力低下防止等」助言をいただきサービス向上に努めている。「運営推進会議」の議事録へ掲載。毎回、家族へ送付済み。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。 運営推進会議への出席及び市地域包括支援センター主催の介護支援専門員情報交換会等で協力関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。門・玄関を含め「施錠等」一切していない。同業者「グループホーム」及び地域等の介護支援専門員から、身体拘束等をしない「グループホーム」だとの評価を受けている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「会社方針・運営理念」を理解し、自然に職員は防止に努めている。会社側も職員へ「会社方針・運営理念」を実践。「会社=職員」が対等であると意識づけをした結果=虐待の行為=0件を更新中。

グループホーム菜の花(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援をしている。「過去に、成年後見制度の後見人(実子)が不適格で、裁判所へ申し立てた結果、弁護士への変更がなかった」実績がある。その後も、管理者や職員へ機会教育を実施。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。特に「契約書・法改正等」その都度、説明時に各項目にわたり声を出して、内容の理解を求めている。問題が起きてからでは遅いので、「主たる介護者」に納得していただいている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。運営推進会議・家族会・面会時に意見等を聞き業務へ実践。外部者へは、施設見学等の機会に運営事項を説明、また意見を拝聴し、実践に活かしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。毎月一回、全体会議・ユニット会議を開催して、会社方針・運営理念等について意見交換している。この一時間程度は「勤務の法定実働」を減らして、会議に充てている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。入社時に職員個々に、将来の目標を持ってもらっている。その目標が実現できるよう配慮している。さらに、目標となる人材=「看護師・介護支援専門員・介護福祉士・経営又労務管理」等在籍中。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。管理者等「内部・外部研修」勤務時間内で確保している。特に「八時間の勤務時間中」=他の職員が利用者を「どのよう、対応している」か、の「自己研修制度」を設けている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この地域「四社等の同業者」と取り組みをしている。特に「介護事業は複雑多岐」にわたっているため、交流は必要と感じ、当初から実践している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。「認知症介護の基本」であることは全職員が理解している。その結果、(4)設問での実践に繋がっている。平成16年5月15日開所以来、建物等外溝を含め設計を依頼した。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	左記事項を把握するために「家庭に出向き」さらに「当事業所を見学」していただき、要望等を伺っている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族等の意向を傾聴し、それを100%を受け入れるには「いかにしたら良いか」あらゆる角度から検討し納得をいただく。無論、専門的な助言を申しあげている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「我が家づくり」という運営理念に基づき、意識の醸成＝「全体会議・各ユニット会議」を高め、利用者個々の知恵又は意見等を受入れて、築いている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「認知症対応型共同生活介護」の基本と各職員は熟知。左記事項は家族会・毎月の便り・面会及び電話等で、意思の疎通を図り築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から「本人が輝いていた頃」の背景を写真等で、確認又は聞きだし、支援をしている。特に、馴染みの方が訪問された時でも、その会話に支障のない程度に、側で見守り支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	非常に時間を要するが、各職員は「利用者個々の中をとりもち」支援に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居後、各職員は声かけ等を実践。看取り等死亡した場合、葬儀へ参列「喪主挨拶」でも「感謝の言葉」をいただいている。これに「おごることなく、謙虚に反省」を含め、さらに、相談や支援に努めている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者中心の介護が基本と位置づけ、会社方針等が業務実施の判断基準と認識。全職員が理解し実践している。さらに、事例の発生後は意見交換等を行い、切磋琢磨に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他の「グループホーム」入所されて居た方が、不満で当「グループホーム」へ入居。その方が、日々和んだ生活が過ごせるように、ご家族から経過等の把握に努め、アセスメント等を行い、実践に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申送り・ユニット会議等で現状の把握に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族及び職員全員の意見を尊重「ユニット会議等」ご本人が現状の状態を一日でも長く生活ができるかを、介護予防も含め意見交換をし作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左記事項のように記録等を備え付け、その通り実践している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ、十二分ではないが取り組んでいる。現在は、看護師・介護福祉士・調理師及び四年制大学の心理学専攻卒者も介護業務に従事しているため、幅広く対応している。将来は、マッサージ師等の職員配置を考えている。

グループホーム菜の花(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会へ加入「年会費3万円」、塵処理は当社負担、さらに、道路幅が狭く車の離合に支障が生じているために、敷地を「車の離合ができるように」地域へ提供。協働=地域の文化祭へ、利用者の作品を出展等をして支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科・診療内科及び精神科医が定期的又は緊急な往診等の連携を築き、さらに、ご家族ように対し「毎月の便り」又はその都度、状況を報告。併せて、事業所の行事「利用者との忘年会・バーベキュー等」にも気軽に参加していただいている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置「利用者・介護職員」との日常の関わりはでき、さらに、いついかなる時間、場合(夜間)によっては、夜勤も実践する等、家族からも職員・地域からも信頼を得ている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	高齢者のお世話をさせてもらう関係から、開所時から常勤看護師を配置。その関係で、左記の事項は円滑にできている。これにおごることなく日々努力している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当グループホームは当初から、「入居→重度化→終末期」さらには「看とり」まで、ご家族が希望されればということで、ご案内。従って、医療連携体制を含め看取りまで、主治医等からご家族を含め取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	取締役施設長主導で年3回程度実践している。また、利用者急変においても、正看護師2名が常勤しているので、対応する傍ら全ての職員に機会教育を実施、よって、実践力を身に付けている。さらに、練度向上に努めている。



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	軽量鉄骨の平屋建物で火災等の避難誘導訓練を年間2回以上実施し、さらに、避難誘導口を2か所増加。特に地域の方へ協力を依頼して「電話番号をもらっている」夜間は、夜勤者2名＝「各ユニット」又は3名の時もある。土砂流の災害も皆無の地域環境にある。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応をしている。特に、「入浴時及び脱衣は個人ごと」・「トイレ使用時はカーテンを備え付けで活用」さらに食事の摂取も、利用者の「その時の気分・体調等」併せているが、まだまだ工夫を要する事項があると、日夜努力・実践している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	左記事項は、例えば、献立作成時に「何が食べたい・食材はどんな物を入れる」と自己決定及び働きかけをしている。日々和んだ生活が基本」と位置づけ、さらに職員は利用者様が家庭で生活している雰囲気意識し接している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外気浴・食事時間及び入浴時間は、一応決めているが「利用者様の状態・希望」を優先している。「日々和んだ生活が基本」で職員も利用者様が家庭で生活している雰囲気意識し実践。さらに、個々の職員レベルに差がないように機会教育等、切磋琢磨している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の「家族と調整して、使用できる金額」を考慮し実施。特に「清潔感・季節感」は職員の「臨機応変及び創意工夫」で実践しているが、現状を更に向上すべきと認識。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	左記事項をできるように支援している。利用者の意向を優先に「食事作りをはじめ、生活に係わる事項」のすべてを強制は絶対しない。要介護の度合いが、経年とともに支援の状況も変化。

グループホーム菜の花(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	左記事項は大変重要であると、全職員が認識している。看護師の指導の下、調理師及び介護職が一丸となって、利用者個々に「栄養摂取や水分確保」を創意工夫して実施。実践。特に「水分確保」が困難な場合は、医師の指示に基づき点滴で補う等の処置を実施。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	左記事項は「万病のもと」と位置づけ、歯科医往診時、必要に応じ相談、かつ、職員は歯科衛生士から指導を受け支援している。さらに、利用者個々の口腔ケアの状況も確認してもらっている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者個々に排泄の周期を記録して、その周期に基づき、排泄誘導している。が、状況によっては失禁(自立支援不可)の場合もあるが、基本は左記事項の通りと自覚・実践している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常勤看護師の指示の下に、「調理師、介護職員」が連携して、利用者個々の食事摂取量と排便の状況を相互に確認・記録し、常勤看護師へ結果を報告している。状態に応じて常勤看護師は医師の指示に基づき、医療行為を実施している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、一応決めているが「利用者様の身体の状態・その日の希望」を優先している。特に、車椅子の利用者様も浴槽に肩まで浸かれるように「リフト」を設置し、職員の負担軽減と併せて入浴を楽しむことができるように支援をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後は「横になる時は、右側を下に心がけている。」消化吸収が良いから。さらに車椅子の方は「ベッド」で休憩していただいている。気温の変化に対し「熱中症」予防を目的に、各居室に扇風機を設置して、エアコン(冷房)と併用が効果大。

グループホーム菜の花(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の誤薬=「毒」であることを書物・常勤看護師から機会教育を受けて理解。かつ、その備え付け書物=「適応・用法付保険薬事典」でも個々に理解を深めている。支援後の状態を各職員が常に把握している。異常「誤薬を含む」あった場合はすぐに報告を義務化している。会社方針=「真実か」に抵触可否か
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左記事項は、時間帯によって設けている「クラシック等のDVD」鑑賞及び「詩集」の創作等、利用者個々に楽しみごとを持っているため、職員は見守りと併せ支援をしている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	平屋の事業所であるから、気軽に各ユニットの朝食後又は夕食後、庭先に出て家庭菜園の状態を観たり、思い思いの時を楽しんだり、さらに、近くのスーパー、コンビニ及び喫茶等へ外出支援もしている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「家族の意向を尊重し、収支は常時確認をいただき」支援をしている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の使用制限と料金も徴収していない。家族からは利用者様宛のFAX・電子メールで意志の疎通を図る等で左記事項を支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「老人=汚い・臭い」の代名詞を払拭すべく、各職員は認識している。左記事項以外に「臭気の澱み」を解決すべく、天窓の開閉で良い環境を保っているが、まだ、工夫する余地がある。

グループホーム菜の花(Bユニット)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットに「和風(4.5畳)以外に洋風「ソファセット(5人掛け)」の共用空間を設けている。家族等の面会場所及びある利用者の方は、「詩」を創作時に使用、多岐にわたり利用。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で「使い慣れた物や好みの物=ベッド等」の持ち込み、各居室の表札「自宅感覚」で苗字で表示。さらに、利用者様個々の作品を貼付して、独自の雰囲気作り等を工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。特にすり足歩行及び車椅子走行者の方々が「安全」に過ごしていただけるように「段差」を少なくしているが、まだ、工夫の余地があると理解している。